

SPI 3 (Synthetic Personality Inventory 3) とは

(1) SPI 3の構成

SPI 3は数ある適性検査の一つです。適性検査は外見からは判断しにくい個人の能力や興味・価値観などを、できるだけ客観的な情報として得るためのものです。現在、採用に使われる適性検査として代表的なものにはSPI 3の他に「クレペリン検査」や「CAB」・「GAB」などがあります。それぞれに「その人のどのような特性を測定したのか」の目的が設定され、作られています。SPI 3ではコンピテンシー（期待される成果を継続して生み出す能力）のもととなる「知的能力」と「性格」をチェックし、これらから「仕事で成果や業績をあげることができるか」と「組織への適応性があるか」を測定しています。

SPI 3は「能力検査」と「性格検査」の2つの検査で構成されていることから、総合適性検査とも呼ばれています。

① 能力的側面〔あらゆる職務遂行に必要な基礎能力〕

1. 言語能力……………言語情報の理解・判断能力
2. 非言語(数理)能力…数的情報の理解・判断能力
3. 論理的思考力……………言語や数量に対して論理的に分析し、判断・推理する能力
4. 数量的処理力……………数的情報を解釈・処理する能力
5. 事務能力……………漢字の読み書き、計算、表の読み取りなどの事務処理能力
6. 実務処理能力……………情報整理、計算、文章照合などの一般職実務処理能力
7. 英語能力……………基本的な語彙や文法力を前提とした英語理解力
8. 構造的把握力……………課題の構造を把握し、ロジカルな判断を行う実践的総合力

※SPI3の種類により上記能力の検査側面は異なる。

② 行動的側面〔社交性や対人面での積極性の程度、行動的特徴〕

1. 社会的内向性……………社交意欲が高いか低い。
2. 内省性……………思慮深い、考えることを好む。
3. 身体活動性……………体を動かすことを好む、フットワークがよい。
4. 持続性……………粘り強い、忍耐力がある。
5. 慎重性……………見通しをつける、過信しない。

③ 意欲的側面〔目標の大きさ、バイタリティ〕

1. 達成意欲……………大きな目標を持つ、やりがいを求める。
2. 活動意欲……………行動が機敏・意欲的で、決断が速い。

④ 情緒的側面〔行動にあらわれにくい情緒面の特徴〕

1. 感受性……………繊細、感情がこまやか、心配性、感じやすい。
2. 自責性……………やさしい、受容的、悲観的、くよくよする。
3. 気分性……………感情に素直、周囲に影響されやすい、衝動的。
4. 独自性……………個性的、独立独歩、周囲への感心がうすい。
5. 自信性……………覇気がある、強気、自尊心が強い、自信過剰。
6. 高揚性……………明るい、自由奔放、散漫、調子がよい。

⑤ 社会关系的側面〔困難な状況に直面した際の、人や組織へのかかわり方〕

1. 従順性……………意思表示が弱い、周りの意見に従おうとする。
2. 回避性……………人との対立やリスクなどを避ける。
3. 批判性……………自分の意見と異なるものに批判的。
4. 自己尊重性……………自分の思い通りに物事を進める。
5. 懐疑思考性……………警戒心が強い、他人との間に距離を置く。

(2) SPI 3の種類

SPI 3には採用対象者や検査の内容により数種類のものがあります。皆さんが受検する際多く使用される代表的なペーパーテストは、以下のタイプです。また、企業により使用するタイプは異なります。

能力検査	性格検査
SPI 3-U……………基礎能力(言語能力・非言語能力) 70分	} + 約40分
SPI 3-B……………基礎能力(言語能力・論理的思考力・数量的処理力) 90分	
SPI 3-A……………基礎能力 50分	
SPI 3-N(事務職採用)……………事務能力 31分	
SPI 3-R(一般職採用)……………実務基礎能力(基礎能力・実務処理能力) 57分	

※能力検査の問題数は問題のバリエーションによって多少異なります。上記の制限時間はペーパーテストの場合。

パソコンで受検するものについては能力検査約35分、性格検査約30分で行われます。

※SPI 3-U, B, Aの能力検査のみを使用する場合はGATと呼び（例：SPI 3-U能力検査のみの場合はGAT-U）、同様にRについてはRCA、NについてはNCAと呼ばれます。また、性格検査のみを使用する場合はSPI 3-P。

(3) SPI 3の受検形態

- ①ペーパーテスト …… 問題冊子+マークシート記入による筆記形式。
- ②WEBテスト …… 自宅等のパソコンで受検する形式。
- ③インハウスCBT …… 訪問企業内のパソコンで受検する形式。
- ④テストセンター …… 専用のテスト会場のパソコンで受検する形式。

(4) SPI 3の内容

◆能力検査について

SPI 3が採用試験として使われる場合の多くは、まず能力検査で第一の選別が行われます。能力検査の結果は、標準得点（全国水準のレベル）で処理され、7段階評価（7が上位）の中のどこに位置しているかで出力されます。大手人気企業の場合7～6段階（上位から12%、標準得点で62点以上）、中堅でも最低4段階以上（上位から65%、標準得点で46点以上）が選別ラインだといわれています。もちろん、すべての企業がこのような使い方をするというわけではなく、受検者の多い少ないや、その企業が選考のポイントとして何を重視するかなどによって使われ方も様々です。性格検査と合わせて面接時の資料としたり、採用後の配属・昇進・異動などの際にも参考資料として使われます。能力検査（言語・非言語）の問題は、文系関係なく、あらゆる仕事に必要な言語と数字に対する「基礎能力」をみる問題で構成されています。つまり、1問1問がひとつの仕事として与えられているわけです。そして、基礎知識を活用して、いかに仕事を「正確」に、しかも「速く」こなすかの「処理能力」をみる検査になっています。また、事務能力検査の問題内容は計算能力や漢字の読み書き、料金表の読み取りなどから構成されており、まさに事務処理能力の「速さ」と「正確性」をみる検査になっています。問題自体は全SPI 3中でも最もやさしいものですが、問題数が非常に多いので、やはり訓練が必要です。そして実務処理能力は情報整理や計算能力、文章照合など、より一般職の実務に近い内容になっています。

◆性格検査について

SPI 3の「性格検査」には、前ページ「(1)SPI 3の構成」の②～⑤それぞれの要因をみるための質問が数問ずつ用意され、周期的に配置されています。なかには表現を変えて同じ内容を問う質問が複数出題され、最初の答えと後の答えが一致していなかったり、正直に答えたものとそうでないものが極端に混在すると一貫した結果が出ないようにしています。

性格検査については必ず全問回答を心掛けてください。ライスケール（うそつき度）という回答姿勢をチェックする仕組みもありますので、注意しましょう。性格検査はリラックスして、できるだけ正直に回答するようにしてください。

【合格圏の目安】

段階	標準得点	人数の割合	合格圏の目安
7	70以上	2.3%	
6	62～69.5	9.2%	
5	54～61.5	23.0%	
4	46～53.5	31.0%	
3	38～45.5	23.0%	
2	30～37.5	9.2%	
1	29.5以下	2.3%	

注:「合格圏の目安」は一般的にいわれていることであり、絶対ではありません。

【「標準得点」と「段階」について】

- ・標準得点 …… 全国的な平均を50とした指標。
全国水準と比較して相対的に把握。
- ・段階 …… 標準得点を7段階に表示。